

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

提案者	講評
<p>島根県江津市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所以外の地域事業者や住民の姿があまり見えてこない点が気になった。金融機関の関与も限定的に見える。 ・提案書では「エネルギー・お金・意識」と整理されているが、エネルギーについては事業内容として理解できる。一方で、お金の部分がどこまで成り立つのかは少し心配に感じた。その後の意識の醸成によって付加的な価値を生み出そうとしているのだと思うが、その点についてももう少し具体的なプログラムが示されないと、将来的な道筋がやや不安に感じる。 ・市民の強い声やニーズがあって、それをうまく拾い上げて進めていくという構図が見えると、話としてはかなり説得力が増すと思う。今回はそうした声あまり見えてこなかったのも、その点をもう少し強調してもよいのではないかと感じた。 ・この事業によって何が達成されると見込まれるのかを明確に示してほしい。 ・何らかのファンクションがあって箱をつくるというよりも箱ありきという印象をもった。 ・専門家の必然性が今一つ見えなかった。 ・ヒアリングでの説明で明確な答えがなかった。 ・地域主体の不在という深刻な問題を「中間支援組織づくり」で解決に結び付けようとしており、課題解決のきっかけづくりとしてのモデル性は高いと思われるが、地域電力事業は自治体主導では難しいところもあるため、専門家の助言に期待する。 ・ポイント制度等の形が先行している点が気になる。 ・様式1 経費見込みと見積書内訳が若干異なる。 ・「システム基盤」がサーバー整備なのか、開発作業なのか具体的に何を指すのかが分かりにくい。見積では作業時間も非常に短く、ハードウェアまで含まれているのか不明である。システム構築の中身についても具体的に何をどこまでやり、最終的にどの程度の費用が見込まれ、どの程度の利用が見込まれるのか明記してほしい。 ・飛騨市の実証連携と記載されている点についても、同一会社への発注となっており疑問がある。

- ・システム仕様が不明確なため、見積書全体の妥当性が判断できない。どこまで作るのか、どこが「仮」なのかを明確に記載してほしい。システム基盤だけでなく、制度自体が「仮」になっている点が気になる。また、本当に継続する事業なのか、持続性の面で不安がある。
- ・「システム基盤構築」が本取組ですべきことなのか、再考されたい。
- ・地域脱炭素・GXを継続的に推進する実行主体として、（一社）キラリトゴウツの設立が予定され、具体的な事業展開へ期待できる。
- ・市長や担当者の説明から、事業を理解して進められる体制は感じられた。
- ・一般社団法人を設立し電力契約を切り替える点は、一定の収益性が見込まれる。さらに再エネ事業に展開できれば、地域の雇用や資金循環につながる可能性もあると感じた。また、人材面では比較的マッチしている印象である。
- ・地方創生SDGs課題解決モデル都市の提案としては良い提案だと感じた。
- ・一般社団法人とはいえ事業組織であり、運営費を稼ぐ仕組みが必要だと思料する。補助金や市からの負担金だけでは継続は難しいかと考えている。
- ・システム構築やアプリ展開にどの程度費用がかかるかが不明瞭である。
- ・お金の使い方やプログラムの組み立てについて、外部に説明できるストーリーになっているかが課題である。